

医療面接の基礎

責任者・コーディネーター	人間科学科心理学・行動科学分野 相澤 文恵 教授		
担当講座・学科(分野)	人間科学科心理学・行動科学分野		
対象学年	2	区分・時間数	講義 15 時間
期 間	後期		
単 位 数	1 単位		

・学習方針（講義概要等）

医療の担い手の一員として、患者、同僚、他職種専門職や地域社会との信頼関係を確立するためには、相手のところや立場、価値観等の理解と尊重が必要となる。本講義では、医療面接に必要な態度と基本的技法を修得するために、コミュニケーションの基礎、行動科学理論を用いたヘルスコミュニケーション、患者の特性に応じた医療面接等について学ぶ。さらに、基本的な理論を学んだ後、学生同士によるロールプレイを行い、理論の理解を深めることによって医療面接を効果的に行う基礎を身につける。

・教育成果（アウトカム）

1. コミュニケーションと医療面接の基礎を学修することで、対人理解・対人援助に関する基本的な知識と態度を習得し、相手の立場に立った援助ができるようになる。
2. 他者との信頼関係や他者配慮的態度について学修することで、チーム医療に寄与できるコミュニケーション能力を身に付け、実践することが出来る。
3. ストレスマネジメント概念を理解することで、自身のメンタルヘルスの保持増進のため必要な行動をとることが出来る。

（ディプロマ・ポリシー：1,4,5）

・到達目標（SBO）

1. 対人理解に関する基本的態度を説明できる。（41, 42, 43, 44）
2. 医療面接に用いられる基本的技術について説明できる。（47, 48）
3. カウンセリングに求められる視点を理解し、必要な態度を説明できる。（34, 44, 45, 51）
4. ヘルスコミュニケーションについて説明できる。（☆）
5. 行動科学理論をヘルスコミュニケーションへ応用する方法について説明できる。（☆）
6. ストレスマネジメントとセルフケアの重要性について理解し、説明できる。（☆, 46）

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
9/11	金	3	人間科学科心理学・行動科学分野	相澤 文恵 教授	<p>医療者・患者関係</p> <p>1. 医療者と患者の信頼関係を築くコミュニケーションについて説明できる。 コミュニケーションの基礎</p> <p>1. コミュニケーションの種類を列挙できる。 2. メッセージとメタメッセージについて説明できる。 3. コンテントとコンテクストについて説明できる。 4. ミスコミュニケーションについて説明できる。 5. コミュニケーションの機能と役割について説明できる。</p> <p>事前学習：教科書 14～20 ページを読んでおく。 事後学習：講義資料を復習する。</p>
9/16	水	1	人間科学科心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 講師	<p>カウンセリングの基礎</p> <p>1. 広義/狭義のカウンセリングについて説明できる。 2. カウンセリングにおいては、なぜ「クライアント」と称するのかについて、説明できる。 3. カウンセリングが成立する条件について説明できる。 4. カウンセリングにおける倫理について説明できる。 5. カウンセラーの基本的態度とラポールについて、説明できる。</p> <p>事前学習：「心理学」の「臨床心理学の基礎」で学んだ内容を復習しておく。 事後学習：講義資料を復習する。</p>
9/30	水	1	人間科学科心理学・行動科学分野	相澤 文恵 教授 藤澤 美穂 講師	<p><演習></p> <p>受容・共感(1)</p> <p>1. 傾聴する態度がなぜ必要かを述べることができる。 2. 自分の話し方と聞き方のくせについて検討できる。 3. ロールプレイにおいて対話している相手の感情の動きを推測できる。 4. 推測した感情を自然な言葉で相手に返すことができる。</p> <p>【ロールプレイ】</p> <p>事前学習：傾聴する態度について教科書 47～52 ページを読んで調べる。 事後学習：講義資料を復習する。</p>

10/9	金	3	人間科学科心理学・行動科学分野	相澤 文恵 教授 藤澤 美穂 講師	<p><演習> 受容・共感(2)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 共感の段階について説明できる。 2. クライエントの性格的な傾向を推測できる。 3. ロールプレイにおいてクライエントに共感できる。 <p>【ロールプレイ】 事前学習：共感について教科書 52～56 ページを読んで調べる 事後学習：講義資料を復習する。</p>
10/16	金	3	人間科学科心理学・行動科学分野	相澤 文恵 教授	<p>ヘルスコミュニケーション理論を理解する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. カウンセリングに適したポジショニングを説明できる。 2. ヘルスコミュニケーションの目的を説明できる。 3. ヘルスコミュニケーションの方法について説明できる。 <p>事前学習：「行動科学」の「健康教育の歴史」で学んだ内容を確認しておく。 事後学習：講義資料を復習する。</p>
11/4	水	1	人間科学科心理学・行動科学分野	相澤 文恵 教授 藤澤 美穂 講師	<p><演習> ヘルスコミュニケーションへの行動科学理論の応用</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事例を行動科学理論にあてはめて検討し、介入すべき変数を抽出できる。 2. 抽出した変数について、介入計画を立てることができる。 3. 介入計画に基づいてヘルスコミュニケーションのロールプレイができる。 <p>【グループワークとロールプレイ】 事前学習：前回講義資料を用いて代表的行動科学モデルの理論を確認しておく。 事後学習：講義資料を復習する。</p>
11/20	金	3	人間科学科心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 講師	<p>個人と環境の相互作用を理解する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生物-心理-社会モデルでのクライエントの理解について、説明できる。 2. クライエントの主訴に関連する情報として、何を聞く必要があるか、説明できる。 3. ジェノグラムを記載できる。 <p>【双方向授業】 事前学習：教科書 65-75 ページを読んで、面接で聞き出すべきことについてまとめておく。 事後学習：講義資料を復習する。</p>
11/27	金	3	人間科学科心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 講師	<p><演習> クライエントからの質問への応用</p>

					<p>1. 提示されたケースに基づき、アセスメントのポイントを挙げるができる。</p> <p>2. クライアントを詳しく理解するために必要な情報を挙げるができる。またその情報を引き出すための質問を挙げるができる。</p> <p>3. クライアントからの質問に対し、その意図や背景を考慮した応答をすることができる。</p> <p>4. 明確化の技法を用いた応答ができる。</p> <p>【グループワーク】</p> <p>事前学習：教科書 84-89 ページを読んで、面接で生じる問題についてまとめておく。</p> <p>事後学習：講義資料を復習する。</p>
12/4	金	3	人間科学科心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 講師	<p>トラウマティックストレスの理解とストレスマネジメント</p> <p>1. ストレスマネジメントの重要性を理解し、ポイントを挙げるができる。</p> <p>2. 災害等のトラウマティックな出来事後のストレス反応と悲嘆 (grief) について、説明できる。</p> <p>3. 心理教育の効果と重要性について、説明できる。</p> <p>4. 惨事ストレスを理解し、支援者のストレスケアのポイントを挙げるができる。</p> <p>事前学習：「心理学」の「ストレスの心理学」で学んだ内容を復習しておく。災害時における薬剤師の活動について、インターネットで調べる。</p> <p>事後学習：WebClass での確認テストに取り組み、結果のフィードバックを受ける。</p>
12/11	金	3	人間科学科心理学・行動科学分野	相澤 文恵 教授	<p>態度分析</p> <p>1. 解釈モデルについて説明できる。</p> <p>2. LEARN Model について説明できる。</p> <p>3. Porter の態度類型について説明できる。</p> <p>4. 医療面接における態度分析のポイントについて説明できる。</p> <p>医療面接のまとめ</p> <p>1. 医療面接の役割について説明できる。</p> <p>2. 医療面接のステップを説明できる。</p> <p>【双方向授業】</p> <p>事前学習：これまでの講義内容を振り返っておく。</p> <p>事後学習：患者中心の医療の実現のために果たす医療面接の役割について理解する。</p>

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	はじめての医療面接 コミュニケーション技法とその学び方	斎藤 清二	医学書院	2000

・成績評価方法

定期試験の成績を 70%、演習への取り組みと提出物を 25%、確認テストの成績を 5% として評価する。

・特記事項・その他

本教科では、一般的な講義に加えてグループワーク、ロールプレイによる演習を行う。また、演習課題については講義時間内にまとめを作成して提出することを求める。演習課題についてのフィードバックは内容に応じて講義内で適宜実施する。シラバスに記載されている次回の講義内容を確認し、教科書・配布資料を用いて事前学習、事後学習をおこなうこと。各講義に対する学習時間は最低 30 分を要する。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノート型 PC(Microsoft Surface Pro)	1	講義資料の提示
講義	ノート型 PC (MacBook Air MD711J/A)	1	講義資料の提示
講義	プロジェクター	1	講義資料・教材の提示
講義	DVD(BR)プレーヤー	1	教材の提示
講義	書画カメラ	1	教材の提示
講義	デスクトップ PC (iMac (Retina 5K, 27-inch, 2017))	1	講義資料の作成
講義	デスクトップ型 PC (EPSON MR4800E)	1	講義資料の作成